

# 熊本・徳永直の会会報

第44号

## 風致地区は泣いている

吉田河 童

自然保護が叫ばれている中に  
何と無謀な行為であろうか  
風致地区とは  
竹一本伐ること相成らぬと  
言っていた「お上」だったはずだが  
「お上」が許可したんだって  
本当か それは  
伐り倒された一本一本の竹よ  
おまえの悲しそうな面を  
天は  
黙って見下ろしなさっていたのか  
木枯しは  
おまえのさわさわ唄う歌声を  
聞けないと憤っている  
風致地区は泣いている

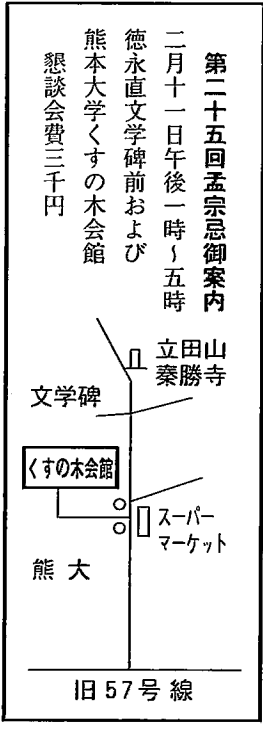
## 孟宗忌にご参加を

親愛なる友人諸氏、第二十五回孟宗忌を、孟宗竹は無くとも、盛り上げようではありませんか。徳永直の文学精神を顕彰するとともに、彼の文学碑を護り、そのことで、熊本有数の風光地域・秦勝寺一帯の自然をも、守り抜こうではありませんか。熊本・徳永直の会では、今年の第二十五回孟宗忌は、ことのほか重要な記念行事だと位置づけています。

今回の孟宗忌は次の内容で開催します。

二月十一日（休日）午後一時より、徳永直文学碑前で、献酒、献花のあと記念撮影。それより移動し熊本大学構内のくすの木会館にて、徳永直作品「太陽のない街」の一節（婦人部会）を、矢部絹子さんほか熊本朗読研究会のメンバーによる朗読。引き続き「徳永直と自然」についてのフリー討論会（資料用意）を行ない、午後三時より五時まで飲食をとりながらの懇談会を開きます。飲食会参加の方からは一人三千円の会費をいただきます。皆様一人でも多くご参加下さい。お待ちしております。

熊本・徳永直の会



## 徳永直作品読書会始まる

第一回徳永直作品読書会は、二〇〇二年一月二日(土)一四・〇〇一六・〇〇、さろん・ど・漱雲(徳永直の会事務所)にて開かれた。昨年暮れの一九日、緊急役員会の席で緊急提案即時決定を見た日時とテキストであった。ハガキ、電話、口コミとわずか一部の人々にだけ知らせるに過ぎなかった。初回は中村が提案者となりテキストは「太陽のない街」とした。まさに泥縄式であったが、次の方々の参加があった。

岩本税、杉野健一、寺沢孝子、福島明子、西田光子、楯田吉豊、岡崎信五、岡崎富子、上野美恵子、中村青史

最初に「太陽のない街」を取り上げた理由は、徳永直のデビュー作品であること、そして彼の代表作であり、日本プロレタリア文学の代表作の一つでもあること、それらにもまして作品の入手が簡単であることであった。文庫本なら徳永光一氏寄贈の「太陽のない街」残部(主に角川と新潮)が沢山あり、一冊百円で売っていること。また岩波文庫では作者の自解が付されていて、いろいろ参考になるなど利点があった。

ただ初回では、内容にはほとんど踏み込めなかった。「太陽のない街」の成立過程やその周辺事情の話に終始した。この作品のモデルになった共同印刷大争議と、そこに至るまでの労働運動における徳永直の位置、役割等について、上野山博の「闘った印刷労働者」一九八三年五月(「闘った印刷労働者」刊行会発行)と、寺西三郎の「社会運動をめぐる印刷労働者の思い出の記」一九八二年二月(北陸プリント印刷・発行)から引用しつつ説明がなされた。寺西

の徳永直結婚式場面の思い出も興味深いものがあった。上野山のは、田所輝明の「人間を動かすもの」(『時代』一九二五年六月号)が「太陽のない街」の一部のモデルではないかと指摘されたりした。ところがその田所輝明だが、徳永との関係部分の描写が曖昧なためか、田所が徳永と同郷だとも読みとれ話題になった。後日調べたところ田所輝明の出身は北海道であったので、ここで言っている「同郷」とは林房雄のことらしかった(これも厳密に言うとは林は熊本でなく大分出身である)。

林房雄(後藤寿夫)が五高時代、徳永直と接触があったことは知られていたが、徳永上京後、共同印刷の職工時代にも関係があったことはここで初めて明らかになったわけである。それは熊本時代(一九二三年頃)と「太陽のない街」を『戦旗』に紹介した時期の中間の時期に当たっていた。

空論に走りすぎた。上野山のこの部分の表記を抜き出しておく必要がある。

「池袋の豊島師範近くの建設者同盟の田所輝明を訪ねて原稿を依頼したり、上野池ノ端から入った花園町に林房雄を訪ねて労働組合機関誌としての『時代』を説明したが、先方はすでに承知で『徳永君元気ですか』といわれ、話している内に



徳永と同郷である事が判った。そして原稿を心よく承諾してくれたのである」

岩波文庫の「自解」については、次回(二月例会)の時コピーして配布することになった。なお今回は、「太陽のない街」の作品内容の検討に入る。「太陽のない街」には章ともいべき項目が九つある(街、対峙する陣営、任務、仮面を脱ぐ、戦線、突風、負傷、桎梏、旗影暗し)。それぞれの章に1、2、3といった具合に節が配されている。今回は「街」から「仮面を脱ぐ」までを区切って、そこでの問題点を討議することになった。中でも「対峙する陣営」の3節婦人部会が話題の中心になりそうである。ちなみに孟宗の朗読もこの部分である。

#### 記

二月九日(土)

一四・〇〇〜一六・〇〇

於 さろん・ど・漱雲

テキスト「太陽のない街」  
持参。

三月九日(土)

一四・〇〇〜一六・〇〇

テキスト「太陽のない街」、  
場所の変更もあり得る。  
参加人数では他に移す。  
その場合は何らかの方法  
でお知らせする。



## 会費納入のお願い

本会は会員年三千円の会費で運営してきました。会報の発行、孟宗の開催のほか事務所(机)借り代、電話代が主な支出です。厳密な会員制の前は、寄附金に頼ることが多かったのですが、会員制にしてからは寄附が少なくなりました。でも会員の方が確実に年会費を払っていただければ赤字にはなりません。どうか会費納入をお忘れなく。前年度分も一緒に入れてもらおうと助かります。左記の方々  
は平成十三年一月から十二月までの納入者です。もしお名前が漏れておられた方は、事務局までお申し出下さい。

#### 寄附者(敬称略)

上妻四郎、千葉昌秋、宮崎政喜御遺族、高光協三、藤森司郎御遺族、宮内俊介御遺族。

#### 会費納入者(敬称略)

泉 滋、井上栄次、今村光江、岩本税、浦田義和、大我孝、大木綾子、大橋三千代、緒方明子、小川裕子、尾脇荅子、海津広子、菊川有臣、清原邦彦、吉良初、久保整子、久保田義夫、熊懷友春、上妻四郎、木庭克敏、坂口隆範、坂本美津子、佐田恭子、沢田博行、島崎信子、下川浩哉、杉野健一、高田隆子、高光協三、高光睦子、柘植周子、千葉昌秋、寺沢孝子、島居正純、中田幸作、永田日出男、中野紀美子、中村青史、西田光子、原田三郎、原田千光、原秀子、東啓一郎、平野正憲、福島明子、益子薫、松本修、光岡達之、宮崎啓子、弥上是子、矢部絹子、山戸かずえ、吉岡恭子、吉田精一、米原尋子、渡辺秀利。

### 事務局だより

▽会報四十四号、孟宗忌も四半世紀二十五回となった。新組織になって会計はじめ少なからずまごついていたが、ようやく軌道に乗りはじめたといったところだ。

▽会計報告を見られるごとく、赤字すれすれである。暮れに緊急役員会を開き協議の結果、特別会員制を導入することとなった。それと宮内氏の遺言を実行に移すことになった。特別会員は年一百万円の会費とし、「隗より始めよ」で役員が率先特別会員との話も出た。読書会の方は一月から三月までの日取りを決めた。詳細は読書会記事参照。

▽二〇〇二年一月の読書会後、早速特別会員として岩本税、杉野健一、上野美恵子、中村青史の四名が年会費一万円を納入した。役員外の方も一名で、これからは役員外の方にも積極的に働きかけ特別会員をお願いしていきたい。経済的基盤がないと活動もままならないのである。活動のないところに活動資金も集まらない。活動を進めよう。まずは読書会の充実である。

▽文学碑移転問題は、その後の経過が全く不透明のまま膠着状態が続いている。竹は一年では亡びない。今年の子を保つれば、やがて元の竹林が戻ってくる。風致地区の問題も含めて、何とか早く明るい見通しをたてたいものである。会員の結束と善良なる日本市民のご援助を願ってやまない。

### 2001年度 決算書

2001年1月～12月 (単位: 円)

収 入		支 出	
会費納入 58名分 (年会費 3,000円)	174,000	事務所家賃15,000×12ヶ月	180,000
寄 附	66,000	会報発行 No42、43	45,990
前年度繰越	85,618	孟宗忌 2001年2月12日	12,683
		通信費 電話代、切手他	79,086
		慶弔費	5,430
		事務用品費	1,081
		次年度繰越	1,348
合 計	325,618	合 計	325,618

平成14年1月12日

上記に相違ありません。

会計監査 米 原 尋 子

会計監査 西 田 光 子

熊本・徳永直の会 熊本市北千反畑町五―一三 さろん・ど・漱雲  
〒八〇一〇八五 TEL・FAX〇九六一三四三〇〇七二  
郵便振替 〇一九四〇一―一四九八

印刷所 (株)昭和印刷 三四四―五二五二・三四三―三八八六